

2017 年度

「アイスクリーム類及び氷菓」販売実績

(メーカー出荷ベース)

～添付資料～

- ①販売実績(金額、物量)、リッター単価の推移(グラフ)
- ②種類別販売実績の推移
- ③種類別販売金額の推移(グラフ)
- ④種類別 上/下期実績、リッター単価
- ⑤形態別販売金額の推移(グラフ)
- ⑥形態別 上/下期実績

2018 年 6 月 15 日

一般社団法人 日本アイスクリーム協会



1. はじめに

一般社団法人日本アイスクリーム協会では毎年、全国の会員からの報告にもとづき、1年間の販売実績を集計し、当協会調査実績として発表しています。

今年も2017年4月から2018年3月までの12ヶ月間を対象とした数値を発表いたします。

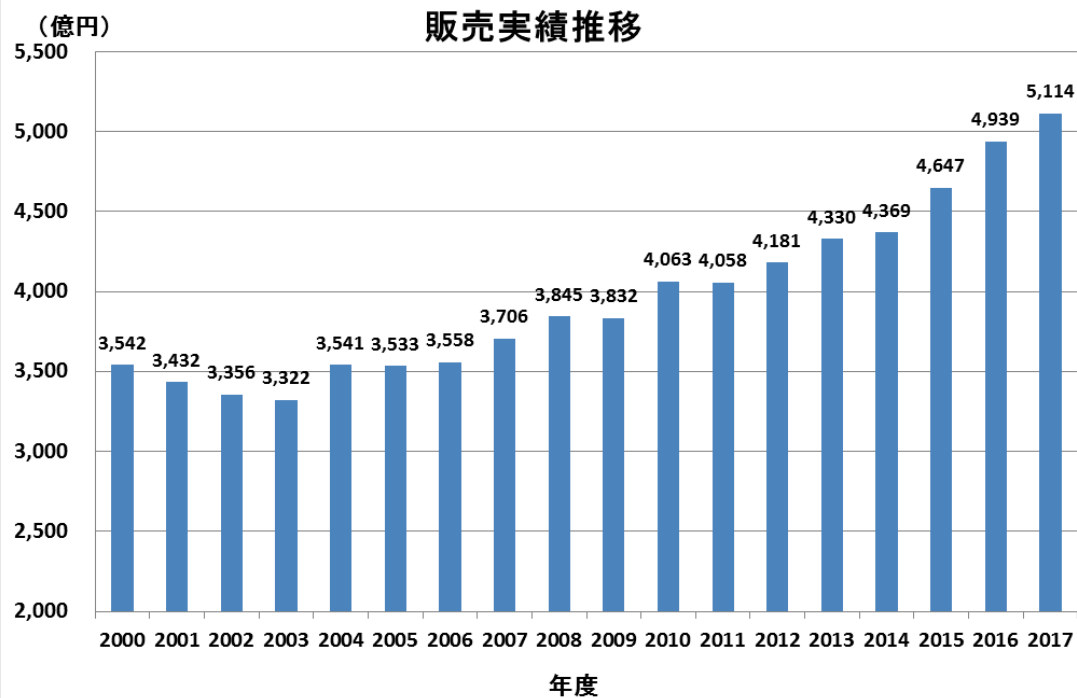
2. 販売実績概要

2017年度は5,114億円(メーカー出荷ベース) 前年比103.5%

2017年を振り返ると、春は全国的に降水量が少なく、日照時間が多くて、気温が高い状態でスタートしました。夏も平均気温では東・西日本で高い結果となりましたが、7月から太平洋高気圧の北への張り出し、8月上旬からはオホーツク海高気圧の出現等で不順な天候になり、梅雨前線の活発な活動による大雨、7～8月にかけて発生した14個の台風等で、特に北・東日本太平洋側の8月の日照時間はかなり少ない状況でした。秋も秋雨前線、台風の影響で、特に10月は北日本から西日本にかけて顕著な多雨・寡照となりました。冬になると、日本付近の強い寒気の流れ込みで、全国的に冬の気温が低く、特に西日本では32年ぶりの寒い冬となりました。日本海側では記録的な大雪になったところもありましたが、太平洋側では日照時間がかなり多かった冬となりました。(気象庁 2017年12月21日、2018年3月1日報道発表資料より)

アイスクリーム業界では、4～7月は好調な滑り出しでしたが、上記天候要因も大きく影響して8月以降市場は停滞して、冬から春先にかけてやっと回復してきた1年でした。2015、2016年度と連続しての6%を超える販売金額の伸長率と比べると鈍化は見られましたが、結果としては、2017年度も販売金額5,114億円(前年比103.5%)と確実に伸長し、販売物量でも890,956kℓと、前年比103.2%となりました。業界が伸長し続けている要因としては、従来の価格にとらわれない「付加価値の高い商品の提供」に各社が努力し続けていること、「シニア需要の拡大」「冬アイスの定着」が挙げられます。また、従来の販促方法に加えて、「SNSを活用してのB to C」が功を奏してきていることも業界活性化の要因と推察しております。尚、今回の実績報告では、従来報告の無かったメーカーも数社入っております。

	2017年度	2016年度	前年差	前年比
販売金額(億円)	5,114	4,939	175	103.5%
販売物量(kℓ)	890,956	863,114	27,842	103.2%



3. 種類別実績

(1) 販売金額

種類別アイスマルクが大きく伸長した一方で、氷菓についてはわずかに前年を下回りました。種類別アイスクリームの主力商品に対して、色物展開では種類別アイスマルクに変更しての伸長、また、種類別氷菓では8月以降の天候不順で影響が出ていたことが予想されます。

(金額:億円、構成比:%)

区分	2017 年度				2016 年度	
	金額	構成比	前年差	前年比	金額	構成比
アイスクリーム	1,597	31.2	51	103.3	1,546	31.3
アイスマルク	1,058	20.7	109	111.5	949	19.2
ラクトアイス	1,593	31.2	27	101.7	1,566	31.7
氷菓	866	16.9	△12	98.6	878	17.8
計	5,114	100.0	175	103.5	4,939	100.0

(2) 販売物量

種別別アイスマイルク、ラクトアイスは物量の増加が金額の増加を上回っていたことから、単価(円/ℓ)が若干ダウンしています。逆に、種別別氷菓は金額のダウンが物量のダウンを下回って、氷菓の単価(円/ℓ)はアップしており、氷菓でも付加価値を付ける努力が影響していると思われます。

(物量:kℓ、構成比:%)

区分	2017 年度				2016 年度	
	物量	構成比	前年差	前年比	物量	構成比
アイスクリーム	185,298	20.8	4,034	102.2	181,264	21.0
アイスマイルク	179,241	20.1	23,784	115.3	155,457	18.0
ラクトアイス	346,066	38.8	10,639	103.2	335,427	38.9
氷菓	180,351	20.3	△10,615	94.4	190,966	22.1
計	890,956	100.0	27,842	103.2	863,114	100.0

4. 形態別実績

(1) 販売金額

「マルチパック」、「ホームタイプ」の減少は核家族化、個食化の影響もあるかと思いますが、今後の推移を見ていく必要があります。また「その他一般」の増加は、アイスクリーム市場で従来の形態にとらわれない商品が多くなっているためと思われます。「業務用」の増加は、今回初めて報告いただいたメーカーに起因したのに加え、一部外食産業のデザート強化に起因したものと推察しています。

(金額:億円、構成比:%)

区分	2017 年度				2016 年度	
	金額	構成比	前年差	前年比	金額	構成比
紙カップ	867	17.0	23	102.7	844	17.1
プラカップ	473	9.2	△12	97.5	485	9.8
スティック	508	9.9	△33	93.9	541	10.9
コーン	347	6.8	13	103.9	334	6.8
モナカ	317	6.2	12	103.9	305	6.2
マルチパック	1,326	25.9	△18	98.7	1,344	27.2
ホームタイプ	59	1.2	△5	92.2	64	1.3
その他一般	646	12.6	47	107.8	599	12.1
業務用	571	11.2	148	135.0	423	8.6
計	5,114	100.0	175	103.5	4,939	100.0

注)「その他一般」には一口タイプ、サンドタイプ、もちアイス、飲むタイプ、ケーキ等を含む。

(2) 販売物量

カップでは「紙カップ」の物量アップ分が「プラカップ」の落ち込みをちょうどカバーした形になっています。また、「スティック」の物量ダウンは数字上、「コーン」と「その他一般」の物量アップの加算分とほぼ匹敵していますが、「スティック」では金額が物量ほどダウンしていないことから、単価(円/個)はアップしています。

(物量:kQ、構成比:%)

区分	2017 年度				2016 年度	
	物量	構成比	前年差	前年比	物量	構成比
紙カップ	138,643	15.5	5,135	103.8	133,508	15.4
プラカップ	88,832	10.0	△4,841	94.8	93,673	10.9
スティック	78,983	8.9	△14,294	84.7	93,277	10.8
コーン	60,379	6.8	4,879	108.8	55,500	6.4
モナカ	59,410	6.7	1,848	103.2	57,562	6.7
マルチパック	241,034	27.0	△2,582	98.9	243,616	28.2
ホームタイプ	16,873	1.9	△1,167	93.5	18,040	2.1
その他一般	89,289	10.0	8,115	110.0	81,174	9.4
業務用	117,513	13.2	30,749	135.4	86,764	10.1
計	890,956	100.0	27,842	103.2	863,114	100.0

以上